たかけい学報

The Bulletin of Takasaki City University of Economics

高経大生のキャンパスライフをサポートする情報誌

特集

トップで活躍する卒業生

no.94

CONTENTS

p.1-5

特集①　「トップで活躍する卒業生」
ヤマト運輸(株)　長尾　裕さん

p.6

学生クローズアップ
ソフトボール部　白澤昭吾さん

p.7-8

特集②　「教員海外レポート」
経済学部　水口　剛　教授
経済学部　國分功一郎　准教授

p.9-10

研究室紹介
経済学部　　　尾形　祥　准教授
地域政策学部　佐藤英人　准教授

p.11

留学体験記　横山亜依さん

p.12

ふるさとを語る 日本編 その 32 大谷ひろ子さん
ふるさとを語る 海外編 その 31 王　佳欣さん

p.13

鶴鷹祭　唐澤　悠さん
三扇祭　飯塚巧麿さん

p.14-15

たかけい INFORMATION

「手を抜かず、きちんと」
大学時代に培ったこの気持ちは、
社長となった今でも大事にしています。

ヤマト運輸（株）代表取締役社長
長尾　裕

企業のトップ、そして卒業生から見た高経大とは？

平成27年4月にヤマト運輸(株)の社長に就任された長尾　裕　氏は、昭和63年に本学を卒業されたOBです。

一大企業のトップの眼は、母校である高経大の今をどのように見ているのか、また、これから社会に旅立つ後輩に対して、何を期待しているのか。長尾氏の卒業後ほどなくして本学に着任した矢野広報室長と語り合いました。

ヤマト運輸（株）代表取締役社長
長尾　裕

×

高崎経済大学教授・広報室長
矢野　修一

矢野広報室長（以下、「矢野」） 本日はお忙しいところ、ありがとうございます。日本を代表する企業のトップになられた卒業生からお話を伺える貴重な機会ですので、時間の許す限り、長尾社長の学生時代のことや、トップから見た高経大のこと、さらには学生へのメッセージなどもお聞きしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
長尾社長（以下、「長尾」） こちらこそよろしくお願いいたします。

―今も、昔も全国から学生が集まっています。

矢野 さて、高崎経済大学は、在学生の７割が群馬県外出身という、全国型公立大学として、すべての都道府県から学生が集まっています。また、地域政策学部開設以降、女子学生の比率も高まり、今は男女７対３程度となっていますが、当時はいかがだったでしょう。
長尾 全国から学生が集まるというのは当時も同様だったと思います。ただ、女子学生はそこまで多くなかったように記憶しています。
矢野 長尾さんも群馬県外、兵庫県からご入学されましたが、やはりアパート暮らしを。
長尾 入学した１年目は、いわゆる「下宿」に住みました。大家さんの自宅の庭先に、十数件の長屋が立ち並ぶ、まかない付きのところでした。家賃は月9,500円でした。裸電球だけがぶら下がった部屋に、入学した当初は、学生生協で買った布団と、実家から持ってきたラジカセと少しの衣服だけで暮らしていました。１年間はテレビのない生活でしたね。
矢野 まかない付きに住んでいたとのことですが、関西出身の長尾さんの口に合いましたか。
長尾 出身は関西ですが、父が大学時代を信州で過ごしたせいか、納豆なども食卓に出ていましたので、特に戸惑いはなかったです。ただ、流通事情が今ほどよくなかったのか、魚が美味しくなかった印象があります。
矢野 その下宿にはどのくらいお住まいだったのですか。
長尾 入学後間もなく硬式テニス部に入部したのですが、練習後に友人や先輩とご飯を食べに行く機会が増え、まかないを断ることも多くなりましたので、２年目には先輩から紹介されたアパートに引っ越しました。
矢野 当時お住まいだったアパートは今も残っていたりするんですか。
長尾 数年前に仕事で高崎を訪れた際に、大学とその周辺の様子を見る機会がありました。とても懐かしく見て回っておりましたら、当時のアパートがまだ残っていまして、とても驚きました。
矢野 体育会の硬式テニス部に入部されたとのことですが、鶴鷹祭（都留文科大学との定期戦）の戦績はいかがでしたか。
長尾 鶴鷹祭は、いつも勝っていたように思います。ただ、群馬大学とも定期戦をしていましたが、こちらは勝てなかったです。
矢野 アルバイトはいかがでしたか。
長尾 部活動を優先しておりましたので、練習終了後に働くことができる夜間の時間帯を中心に行いました。先輩から引き継いだパチンコ店の清掃の仕事を４年間続けましたが、なかなかおもしろいアルバイトでした。毎日夜９時から１１時までの２時間、３人の人手が必要なので、友人６人でシフトを組んで回していましたが、当時としては高額の時給 1,000 円で毎日現金支給してもらえるので、日々の生活に困るということはなかったです。週４、５日は行っていました。
矢野 ヤマト運輸の社内報を拝見いたしますと、ヤマト運輸の「群馬ベース」でアルバイトをしたとありますが。
長尾 大学２年生の１２月だったと思いますが、群馬県にあるヤマト運輸の物流拠点で荷物を仕分けする仕事をしていました。当時はこの会社に入社するなどとは夢にも思わなかったです。

―ゼミの先生からは、就職よりも卒業の心配をされました。

矢野 体育会に所属し、アルバイトも相当されていたということで、勉強との兼ね合いが大変だったのではないかと思いますが、ゼミはどちらに所属されていたのでしょうか。
長尾 茂木一之先生（※1）のゼミでした。
矢野 ゼミは頑張っていらっしゃいましたか。
長尾 毎日、学校には行ったのですが、どちらかというと友人と会ったり、テニスをするのが主な目的でしたので、胸を張って「積極的にゼミ活動をした」とまでは言えないですね。ただ、ゼミ自体はとても楽しく、先生もおもしろい方でした。ヤマト運輸に内定をいただいた時のこと、茂木先生に相談したのですが、「お前、就職よりも、このままだと卒業できないよ」と言われました（笑）。
矢野 入社後はどのような感じだったんでしょうか。
長尾 どんな仕事もそうだと思いますが、ヤマト運輸は特に「現場」が会社を支えています。そのため、採用された１年目は現場にどっぷりつかりながら仕事を覚え、その後３年間は、管理部門も含めて、色々な部署をローテーションされました。
４年目から本配属となるのですが、私は現場がとても面白く感じましたので、現場に長く置いてもらいました。そんな中、現場で仕事をするとなると、いろいろなタイプの社員やパートさんとコミュニケーションをとらなくてはなりません。
矢野 そういった場面で、大学時代の経験が役立ったということはありましたか。
長尾 大学で親元を離れて一人暮らしを始め、体育会、下宿やアルバイト先などでたくさんのコミュニティに加わったわけですが、どこでもどんなときでも「手を抜かずにきちんとやる、礼儀正しく、まじめに向き合うこと」が大事だと感じました。これは、社会に出て、社長となった今でも、礎として役立っていることだと思っています。
矢野 今の学生も長尾さんと同じく、サークルやバイト先、ゼミ活動などでの経験をとおして、多種多様なことを学んでいます。さて、社内報の中で、「仲間や部下がお客様からお褒めいただくことが何より嬉しい」とお話しされていますが、これは長尾さんが現場を大事にしているからこその発言だと思います。
長尾 先ほどお話ししたとおり、新入社員はまず現場に配属され、その後営業所の責任者になるのですが、私も２７歳で役職に就き、営業所の責任者になりました。まわりの社員はみんな年上で、個性的な方も多かったのですが、円滑に業務を進めるためには、私どもがお客様からどういうお声をいただいたかを把握し、これを適切にフィードバックすることが大事だと思いました。もちろんお褒めの言葉ばかりではなく、クレームもあります。そんな中で、お客様からお褒めいただくというのは、組織の長としてこの上ない喜びでしたね。

―入社後に感じた、同窓のつながり

矢野 さて、2006、2007 年度に本学のリレー講義の講師をしていただいた、元ヤマトシステム開発（株）社長の内田五郎さんをはじめとして、ヤマトグループ全体でみると、本学の卒業生は大勢いらっしゃると思いますが、入社後に大学のつながりというのを意識されたことはありますか。
長尾 もともとヤマト運輸に入社するきっかけとなったのは、OB 訪問でした。入社する気満々というわけではなく、話を聞きに行く程度だったのですが、１時間くらい話をしたら、「君はヤマトに向いているから、もし内定が出たら蹴らないでね」と。いや、ちょっと待って、と思いましたが、結局、縁があったのかその後内定を頂き、入社することになってしまったわけです。社長になったから、というわけではありませんが、結果入社してよかったと思います。最初に配属された支店の営業課長も高経大の OB で、大変心強かったです。
矢野 本学 OB が活躍されているヤマトグループですが、2019 年に 100 周年を迎えます。この間には、創業間もない頃に発生した関東大震災、そして長尾さん自身が営業所で遭遇された阪神・淡路大震災、そして先の東日本大震災があったわけですが、ヤマトグループでは社員が自発的に対応行動をとったと聞いています。
長尾 はい。東日本大震災の時には、自身も被災者である各地の社員達が、会社から指示をされたわけではなく、自ら各自治体に申し出て、救援物資の輸送などを行いました。社員が自発的かつ本能的に行動できたことは、いい意味で「自分で考えて動く社風」がいまだ社内に生きているのかなと思いました。ですが、その気風のようなものを支えるのは、平時からの BCP（※2）に対するたゆまぬ備えであろうと考えています。今や物流はインフラであり、それが滞ることは、社会・経済にとって大きなマイナス、社会的な問題であると、東日本大震災でクローズアップされました。業界として、まったく物流が機能しない状況は絶対に避けるべきであり、「細くても動かす」という仕組みづくりが肝要で、かつ課題であると考えています。

―在学生へのメッセージ

矢野 では、長尾さん。最後に、トップの立場から、在学生へのメッセージを頂戴できますでしょうか。
長尾 先日ヤマト運輸の社内報の企画で、社長と社員の対談が行われました。その中で、「もし生まれ変わったら何がしたいか」という質問があったのですが、悩みに悩んで、「ちゃんと、突き詰めて勉強してみたい」と答えました。在学中は単位を取ることにだけ執心してしまいましたが、社会に出てからは、授業で学ぶことは社会で直面する課題の解決に役立つということに気づきました。学生さんは、受験勉強から解放され、本当の意味での勉強ができる環境にいるわけです。こう

髙木理事長（右）、石川学長（左）と、そろいのネクタイで記念撮影

インタビューの後は、満席の会場で講演をいただきました

いうチャンスを大事にして勉強してもらいたいです。また、自分の専攻する分野だけでなくとも、色々なことに興味を持ち、経験を積んで、視野を広げておいてもらいたいと思います。

矢野　長尾さんの力強いメッセージを預かりましたので、きちんと学生に伝えたいと思います。また、グローバル化が叫ばれて久しいわけですが、英語の必要性をお感じになられることはありますか。

長尾　英語は本当に勉強するべきだと思います。ヤマトグループはドメスティックな企業と思われがちですが、国外への進出もしており、立場上、外国の方とお会いする機会も多い。私も英語は得意ではありませんが、そのような時に、通訳を介さずに話すことができれば、という欲求を感じます。ぜひ、高経大の学生には、在学中に最低限の英会話力は身につけておいてもらいたいと思います。

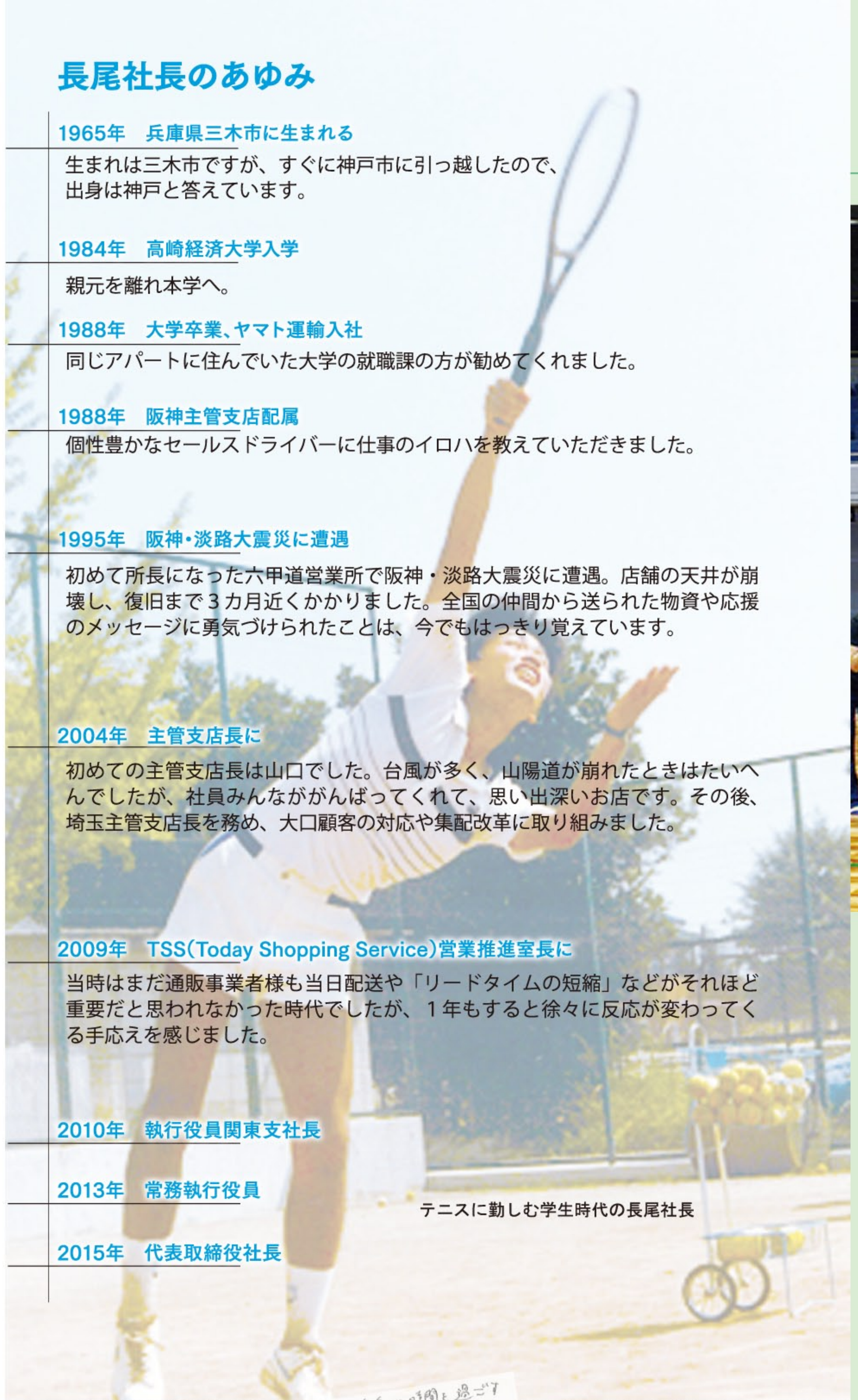
矢野　企業のトップの方が英語の必要性をお感じになるということを本学の学生に伝え、大学が用意している語学力向上の各種メニューを有効活用させるようにしようと思います。

本日はお忙しい中、多岐に渡りお話しいただきありがとうございました。本学OBが、ヤマト運輸という一大企業のこれからの50年、100年の歴史をお作りになる立場にいることを誇りに思います。今後のご活躍を期待しています。

※1 茂木一之先生　2013年3月退官。本学名誉教授。専門は経営学、人的資源管理、労使関係論。

※2 BCP（Business Continuity Plan）事業継続計画は、企業が自然災害などの緊急事態に遭遇した場合において、中核となる事業の継続、早期復旧を可能とするために、平時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを計画しておくこと。

長尾社長のあゆみ



1965年　兵庫県三木市に生まれる

生まれは三木市ですが、すぐに神戸市に引っ越したので、出身は神戸と答えています。

1984年　高崎経済大学入学

親元を離れ本学へ。

1988年　大学卒業、ヤマト運輸入社

同じアパートに住んでいた大学の就職課の方が勧めてくれました。

1988年　阪神主管支店配属

個性豊かなセールスドライバーに仕事のイロハを教えていただきました。

1995年　阪神・淡路大震災に遭遇

初めて所長になった六甲道営業所で阪神・淡路大震災に遭遇。店舗の天井が崩壊し、復旧まで3カ月近くかかりました。全国の仲間から送られた物資や応援のメッセージに勇気づけられたことは、今でもはっきり覚えています。

2004年　主管支店長に

初めての主管支店長は山口でした。台風が多く、山陽道が崩れたときはたいへんでしたが、社員みんながんばってくれて、思い出深いお店です。その後、埼玉主管支店長を務め、大口顧客の対応や集配改革に取り組みました。

2009年　TSS（Today Shopping Service）営業推進室長に

当時はまだ通販事業者様も当日配送や「リードタイムの短縮」などがそれほど重要だと思われなかった時代でしたが、1年もすると徐々に反応が変わってくる手応えを感じました。

2010年　執行役員関東支社長

2013年　常務執行役員

2015年　代表取締役社長

テニスに勤しむ学生時代の長尾社長

就職相談会が開催されました。

対談が行われた平成27年11月21日（土）、東京都港区のチサンホテル浜松町において、東京三扇会主催によるOB・OG就職相談会が開催されました。

両学部合わせて53名の学生が参加し、各企業の第一線で活躍する先輩方のお話を伺いました。熱く、そして思いやりのこもったお話に、多くの学生が感銘を受け、今後の就職活動に役立てたいと話していました。

学生クローズアップ

ソフトボール部

地域政策学部 3年 白澤昭吾

1 ソフトボール≒野球？

「ソフトボール」と聞いて多くの人は何を想起するだろう。大多数が「野球を小さくしたもの」「女性のやるスポーツ」というイメージを最初に思い浮かべるのではないだろうか。しかし、それは大きな誤りであるとここで正しておきたい。黄色く大きな硬い球を、風車のように腕を回転させて投げ込む投手。それを野球では見慣れない、打席内でまるで走っているようなフォームで打ち返す打者。そして、足の速い選手ともなれば、塁間2秒、ベース1周11秒を切ることもざらである。つまりは、野球にはないスピード感がほんの一瞬のミスをも許してくれない。

我々高崎経済大学ソフトボール部総勢32名は、そんなスポーツの魅力に取りつかれたものたちである。出身地もソフトボール・野球の経験もまちまちでありながら、監督・顧問である高橋伸次教授のもと、1週間の多くを白球、いや黄球を追うことに費やしている。

2 公立大学の意地、価値ある1勝！

去る9月初旬、三重県で行われた「文部科学大臣杯第50回全日本大学ソフトボール選手権」に出場した。この大会は全日本大学ソフトボール連盟に所属するチームがそれぞれの地区で予選を行い、代表校が覇を競う、大学ソフトボーラーにとって最高の舞台である。我が部も関東地区大会を勝ち抜き、わずか4校にしか与えられない出場権をもぎ取った。

大会の結果であるが、初戦は大阪の四天王寺大学と対戦し6対4で勝利。次戦では愛知の日本福祉大学と対戦し9対11で敗戦となり、本年はベスト16という成績に終わった。しかしながら、敗れた試合では終盤で5点差を一挙に逆転するなど、我々は確実に大会に爪痕を残すことができた。また、出場校のほとんどは私立大学であったが、公立大学でありながら、予選から並み居る強豪校を打倒し、全国大会で1勝を挙げたことは、大学ソフトボール界において驚きをもって伝えられた。

3 史上最多の参加校とかつてない盛り上がり、数多のOB・OGが紡いだ50年の歴史が確かにそこにはあった。

全国大会の余韻冷めやらぬ9月某日、本学ソフトボール部に選手・マネージャーとして在籍された卒業生が一堂に会するOB・OG会が高崎で開催された。本年はソフトボール部創部並びに全日本大学ソフトボール連盟加盟50周年を祝う会として2日間の日程で盛大に執り行われた。OB・OGやその家族に加え、かつての指導者、本学の石川弘道学長などの来賓を含め、総勢150名が参加してくださった。

我々現役部員一同は、会の運営に尽力した。50周年記念祝賀会では多くのOB・OGが久しぶりに会う仲間と旧交を温め、思い出話に花を咲かせておられ、有意義な会となった。準備・運営は例年以上に大変であったが、ソフトボール部の歩んできた歴史の重みを改めて知る良い機会となった。

4 そして我々は、再び終わりのない旅路に出る。

学生スポーツは航海に例えられることがある。本年、我々は全国大会に出場することができた。しかし、それはあくまで目的地のひとつに到着したにすぎない。我々の挑戦はこれで終わることはない。かつての大航海時代のように、すぐに新たな目的地を定め、そこに至るべく長い旅に出なければならないのだ。その途中で様々な困難にぶち当たることがあるかもしれない。しかし、どんなことがあろうとも常に向上心を持ち、前を向いてそれに立ち向かっていきたい。多くのOB・OG並びに関係者が築き上げた「高崎経済大学ソフトボール部」号50年の航海を止めることなく、新たな10年、20年、そして50年へと引き継いでいくこと。それが我々に課せられた使命であり、目標である。

高崎経済大学ソフトボール部　50年間の主な成績

〈全日本大学選手権大会〉出場28回
- ○準優勝　3回（第1回1966年、第6回1971年、第7回1972年）
- ○第三位　1回（第38回2003年）
- ○第四位　3回（第3回1968年、第5回1970年、第7回1973年）

〈東日本大学選手権大会〉出場30回
- ○優　勝　1回（第24回2009年）
- ○第三位　3回（第16回2001年、第17回2002年、第27回2012年）

〈関東大学選手権大会〉出場46回
- ○優　勝　1回（第2回1971年）
- ○準優勝　1回（第30回1999年）
- ○第三位　4回（第17回1986年、第29回1998年、第36回2005年、第41回2010年）

〈関東学生選手権大会〉出場31回（前身大会8回分を含む）
- ○優　勝　3回（第14回2006年、第19回2011年、第20回2012年）
- ○準優勝　3回（第1回1985年、第12回2004年、第17回2009年）
- ○第三位　4回（第7回1999年、第11回2003年、第18回2010年、第23回2015年）

〈関東学生Ⅰ部リーグ〉出場21回
- ○優　勝　1回（2011年秋）
- ○準優勝　4回（2005年秋、2010年春、2011年春、2012年春）
- ○第三位　3回（2007年秋、2010年秋、2012年秋）

特集❷ 教員海外レポート

平成27年度国外派遣研究者として、イギリスで在外研究中の経済学部水口剛教授と國分功一郎准教授から、海外レポートが届きました。

経済学部　水口　剛　教授

陽気なカリビアン

「タケシ、写真撮って！」着飾ったシルマー（Cilmar）が階段を下りてきました。「エリザベスと踊りに行くのよ」

「え？本気？」とこれは私の内心の声。イースター（復活祭）の日の夜です。そりゃ、踊るにふさわしい日でしょうが、シルマーは61歳、エリザベスは72歳です。さすがカリビアン（Caribbean、カリブの人の意）は文化が違うと思わされた出来事でした。

ロンドンに来て最初の1か月、彼女の家にホームステイしたのです。12歳の時にカリブ海のグレナダから来たという彼女は、大声で話し、大音量で音楽をかける騒々しい人でしたが、すっかり仲良くなって、いろんな話を聞きました。なかでも移民批判への批判は明快でした。

「戦後の復興のためにカリビアンやアイリッシュを呼び込んだくせに、復興が終わると、移民のせいでブリティッシュの仕事が奪われているという。その実、カリビアンがやっている仕事は、ブリティッシュがしたい仕事じゃないのよ」。夏以降、イスラム国を逃れたシリア難民がEUに押し寄せ、難民・移民の受け入れが政治問題になりました。そのニュースを見るたびに、彼女の話を思い出しました。

多国籍の街、ロンドン

実際、ロンドンは驚くほど移民の多い街です。カリビアンはもちろん、アフリカ系、中東系、インド系、中国系など、本当にいろんな人がいます。しかもみんな平気で自分の国の言葉でしゃべっています（もちろん英語で十分に用は足せるのですが）。普通、外国に来て英語が流暢でないと、自分が劣っているように感じがちですが、ここでは単に「違う言葉を話す人」なんだ、と思えてきます。大事なのは話の中身。グローバル人材とは何なのか、考えさせられました。

公園だらけ

「ペリカンにエサをやらないで」と池のほとりに立札がたっています。ペリカン？動物園ではありません。ここはウエストミンスター寺院のすぐそば、バッキンガム宮殿前のセント・ジェームズ・パークです。

ペリカンなんているのか？と思ってよく見ると、いました！池の中央の島の上で3羽休んでいます。他にも白鳥やカルガモなどがたくさんいて、さながら水鳥の楽園です。ロンドンのど真ん中なのに喧噪を離れられるこの場所は、仕事帰りの散歩コースの1つでした。町の至る所にやたら広い公園があるのもロンドンの特徴で、こういうところにこの国の豊かさを感じます。

責任投資の最先端

AI（人工知能）で企業を評価するって、そんな話が聞けるとは思いませんでした。ロンドン郊外で開かれた大きなシンポジウムの会場で、新鋭の評価機関の人に出会った時のことです。私は、環境や社会に配慮して投資する「責任投資」という分野の研究に来たのです。1年間は授業をせず、研究に専念する国外研修の制度です。来てみて初めて分かることも多く、勉強になりました。何といってもロンドンは、責任投資では最先端の情報が集まる場所だからです。

EIRISという責任投資専門の調査機関に、私の受け入れ先になってもらい、毎日通いました。午後には公園やテムズ川のほとりを散策して帰るのが日課でした。ここで知ったことを日本にも伝えなければと、月に2回コラムを書いて、日経新聞系列のQUICKという会社のWebに掲載してきました。以下のURLで見られますので、興味があれば、こちらもぜひご覧ください。

http://sustainablejapan.jp/quickesg

のページから「コラム」ページへ。

Takeshi Mizuguchi

イースターの夜。着飾ったシルマー

セント・ジェームズ・パーク（よく見るとペリカンが・・・）

ロンドン大学SOAS校研究会での発表

シンポジウムでのパネルディスカッション

経済学部　國分功一郎　准教授

2015年4月より本学の海外研修プログラムを使って、一年間の予定でイギリスはロンドンに来ています。ロンドン南西部にあるキングストン大学の「近代ヨーロッパ哲学研究センター」（Centre for Research in Modern European Philosophy: CRMEP）に、訪問研究員という身分で所属し、充実した毎日を送っております。

こちらでは、ほぼ毎週開催されるセンターのイベントに参加する以外は、毎日部屋にこもって自分の研究、具体的には現在書いている本の執筆を進めています。ただ部屋にこもりっきりというわけではなくて、夏にはイタリアで行われた哲学のサマースクールに参加して、世界的に著名な哲学者ジョルジオ・アガンベンの講義を受けてきました。秋には私の研究対象の一つである一七世紀オランダの哲学者スピノザについての取材でアムステルダムにも行ってきました。

私の研究の内容をご紹介してもよいのですが、それよりも、イギリスでの生活の実情をご紹介する方が皆さんのお役に立てるのではないかと思いますので、ここでは日常生活で気づいたことを書いていきたいと思います。

こちらで生活するにあたり、最も心配していたのが娘の現地校への入学でした。こちらは定員に空きがないと学校には入れません。娘は英語はしゃべれませんでしたし、親の都合で外国から来て一年間だけ滞在する子どもを学校がどれだけサポートをしてくれるのかという不安もありました。しかしそれらは杞憂に終わりました。幸運にも近くの学校に空きがありました。また、英語がしゃべれない娘に学校は様々な形でサポートをしてくれています。

娘を当然のように受け入れてくれた学校を見ながら気づいたのは、権利という考え方がイギリス社会に根付いているということです。子どもには教育を受ける権利がある。だから、外国から来た子どもであろうときちんとした教育が受けられなければならない。そういう権利の考えが最初にあるのです。よく考えてみれば当たり前のことです。しかし私自身もそうした考えを十分に身につけていなかったことに気づきました。

子どもに強制しないという点も徹底されています。驚いたのは一週間の修学旅行でした。旅行が近づいてきても何の連絡もないのでおかしいなと思って担任に聞いたら、旅行は行きたい子どもだけが申し込みをして参加するとのことでした。申し込みをしていなかったから連絡がなかったのです（その後、申し込みをして参加しました）。「日本では全員参加なんです」と言ったら、「行きたくないのに強制するのはダメよ」と事務所の女性に言われました。

権利の考え方があるから、「自分はこれはイヤだ」と思ったらそれをはっきりと言うことができる。権利の考え方があるから、そう主張する人を社会が支持する。イギリスのオフィスでは、定時になったらあっという間に人が帰って行くそうですが、それも権利の考え方が当たり前になっているからだと思います。

権利という考え方を作ってきたのは近代の哲学です。私は近代の哲学を主に勉強していますが、今頃になって「近代の哲学はとても大切なものを発明したのだなぁ」という感慨にふけっています。「今頃何を言っているのだ！」と怒られそうですが、しかし、権利というのはそれを体験しない限り、なかなか実感をもって理解できない、そういう観念なのです。人はこれこれのことを主張してよいと教わっていなければ、それを主張することはできません。

子どもたちに彼らがもっている権利をきちんと教えなければなりません。そして、「権利は義務の対価」という俗説から彼らを守らねばなりません。自分が思っていることを口にできる。イヤなことはイヤと言える。それは人が自由になるための第一歩です。イギリスで生活しながら、近代の哲学が目指していた実に当たり前のことをよく考えています。

Koichiro Kokubun

自宅付近。霧で有名なロンドンでも驚かれる程の濃霧だった日の撮影

取材で訪れたオランダ・リーンスブルフに残るスピノザの書斎にて

ロンドンを訪れたコミュニティデザイナー山崎亮さんとの対談の後、トラファルガー広場にて

2014年度法律討論会(於:本学7号館)

第一期生

ゼミ講義風景

2015年度(卒論報告)

2015年度合宿(東証)

経済学部　准教授 尾形　祥

1. 研究分野と担当講義

私の専門分野は、商法、会社法、金融商品取引法、保険法です。これらは、いわゆる企業に関する法律です。そのうち経済学部の講義では、会社法、商法総則・商行為法、有価証券法(手形法・小切手法)の科目を担当しています。いずれも法律系科目ですので、経済学や経営学を専門的に学ぶ学生にとっては特殊な科目のように思われるかもしれません。しかし、経済学部の学生にこそ、企業法の基礎的発想を学んで欲しいと考えています。本学の学生は、卒業後、企業に就職する方が多いと思われます。こうした企業のうち、例えば、株式会社は会社法により規制されますが、会社法は株式会社が営利を獲得することを至上命題としています。しかし、法律その他の規範に違反してまで、営利を獲得することは許容されていません。一度、企業が不祥事を起こすと、社会に対して甚大な負の影響を及ぼします。企業の中心的な担い手となる経済学部の学生には、企業が健全に利益を獲得するためにはいかなる規制が必要かを真摯に検討することを通じて、リーガルマインドを涵養して欲しいと考えています。

2. ゼミ活動

ゼミでは、会社法の諸規定や判例についてより詳細に検討し、企業をめぐる法的問題を把握し、それをいかに解決するかについて議論しています。3年生と2年生のゼミでは、報告班は、体系書やそれに関連する資料をまとめた上で、実際の事件をベースとした事例問題について自分たちの見解を提示します。報告班以外のゼミ生には質問票を配布し、報告後、質問内容を記載する時間をとり、考えをまとめた上で質問をしてもらっています。本ゼミでは、「質問能力の向上」を最大の目標としています。その趣旨は、報告に対して本質的な質問をすることで問題の所在を明らかにし、対話による議論を通じて建設的な意見を形成することにあります。質問内容を考え、それを活字にする適度な時間を取り(緊張感を保つため、一定時間に区切ります)、ワークショップのように質問を義務づけることで、積極的に質問をするゼミ生が徐々に増加してきているように見受けられます。質問票は、講義後に回収し、担当教員が質問をまとめ、コメントを付したものを報告者に送付しています。他方、質問票にも担当教員がコメントを付して質問者に返送しています。このような質問票のやり取りを通じて、問題の共有と質問能力のさらなる向上を図っています。

ゼミの4年生は、主として企業に関連するテーマで卒業論文を執筆します。ゼミでは1回につき2名ずつ論文の中間報告を行い、報告者が相互に司会を担当します。報告者以外のゼミ生には質問票に論文についての意見を記載してもらい、報告者はそれを参考にして卒業論文を執筆します。

3. ゼミの課外活動

私が担当するゼミでは、ゼミの課外活動を通じて、「縦の関係」を強化しています。2015年度は、その一環として、ゼミ合宿を行い、東京地方裁判所における裁判傍聴や東京証券取引所の見学などを行いました。また、ゼミ合宿の懇親会には、ゼミのOB、OGの方々を招いて、就職活動、公務員試験、資格試験あるいは大学院進学のための準備や心構えについてゼミ生に話してもらう機会を設けています。

本ゼミのもう一つの課外活動の重要イベントは、新潟大学、白鴎大学、山梨学院大学の法学部ゼミと本ゼミが共同で開催する法律討論会です。本ゼミは、2、3、4年生の合同チームを作り、先輩が後輩を指導する体制をとっています。2013年度および2014年度は、本ゼミが2年連続で優勝し、本ゼミのOBが個人賞である質問者賞を受賞しています。ゼミ生が結束して学習することで、専門外の領域でも十分に議論することができるという自信をつけて欲しいと思っています。

地域政策学部　准教授 佐藤 英人

「ゼミ生が主人公！現地の情報を大切にするフィールド重視のゼミ」

1. 佐藤英人ゼミとは？

私たちのゼミは今年で2年目を迎えた新しい研究室です。2年生11名、3年生12名、総勢23名のゼミ生とともに、さまざまな現代の都市問題を研究しています。都市地理学・経済地理学をベースとした佐藤英人ゼミでは、統計や行政資料を読み解く力と同時に、自分の脚で現地に赴き、自分の目で対象を観察して、自分の口と耳で他者と対話をする、現地から情報を汲み上げてくるフィールドワーク(野外調査)による発見を大切にしています。

2. プレゼミの実施

地域政策学部では2年生の前期にゼミの所属先が決まりますが、正規のゼミは3年生に進級してから開講されます。ゼミが開講されるまでの半年間(ギャップターム)を利用して、2年生が自主的に企画・運営する「プレゼミナール」を実施しています。2週間に1回のペースで開かれるプレゼミでは、本格的な都市研究に取りかかる前に、比較的読みやすい専門書を輪読します。昨年度はリチャード・フロリダ著(2009)『クリエイティブ都市論―創造性は居心地のよい場所を求める』ダイヤモンド社、320pが課題図書でした。

加えて2014年11月9日には、著書の中に登場するグローバルシティ東京を実際に訪れ、日本の最高意思決定機関たる中枢管理機能が皇居からわずか3km圏内に集中している現状を目の当たりにしました。

3. 台湾・高雄巡検

2015年9月16日(水)～ 18日(金)に台湾・高雄市を訪問しました。教員が旗を持って学生を引率する単なる物見遊山ではなく、現地集合・現地解散とし、自力で海外渡航する機会を設けました。自分でパスポートを申請して航空券とホテルを手配するところから、この巡検は始まります。高雄市滞在中は班別行動による市内巡検をおこない、躍動感あふれる人口278万人の大都市に刺激を受けたことでしょう。日本語はもちろん英語も通じない異国の地で現地の方々とコミュニケーションを図ることの難しさ、日本にはない文化・風習に触れることで、海外から日本を見つめ直す良いきっかけになったと思います。海外初体験だったゼミ生もいましたが、「楽しかった。また海外にいきたい！」と感想を述べていました。

4. 高崎市中心部におけるオフィスビル調査

高崎市をはじめとする北関東の諸都市では、近年、空室の目立つオフィスビルが増えています。多くのオフィスビルは都心や駅前に立地していますから、空室が増えると空洞化などの新たな都市問題に発展しかねません。そこで佐藤英人ゼミでは、高崎市中心部を事例に、なぜ空室率が上昇するのか、上昇を抑えるためにはどのような施策が考えられるのか、研究を始めました。国勢調査や経済センサスなどの統計による分析を試みた後、2015年8月末日に高崎駅800m圏(徒歩10分圏)内に立地するすべてのオフィスビルを現地調査しました。小雨の降りしきる中、ゼミ生全員が手分けをして、ビルに入居する企業や用途等を丹念に調べ上げました。調査の中間報告は2015年10月31日に開催された三扇祭の「第4回地域政策学部プレゼンテーション大会」にて発表しました。大会直前まで寝る間を惜しんで準備したそうですが、一生懸命取り組んだ甲斐あって、当日のプレゼンテーションはたいへん素晴らしいものになりました。そして望外にも優勝させていただき、ゼミ生の励みとなりました。調査にご協力下さいました皆様と大会運営に携われた皆様に、佐藤英人ゼミ一同、心より御礼申し上げます。年度末には最終報告書が完成する予定です。引き続き、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

Dublin, Ireland

留学体験記

すべては人とのつながりから

経済学部 3年　横山亜依

私はアイルランドの首都ダブリンに位置するダブリンシティ大学で、交換留学生として約9か月間過ごしました。アイルランドの広大な自然、人びとの優しさに触れながらのこの留学で、日本で過ごしているだけでは知りえなかった世界を体感しました。

ダブリンシティ大学は116の国からの留学生が約20%を占めており、校内は国際色豊かです。留学生へのプログラムも手厚く、交換留学生には特別プログラムがありました。学部や学科関係なく多様な分野の授業を受講でき、経済学の他に心理学、メディア論といった、自分の専攻外の分野も学ぶことができます。未知の領域なので難しさを感じることもありましたが、それ以上に新しいことを学ぶということに楽しさも感じました。授業の進め方は、教授が一方的に話すのではなく、学生の反応を基に進めるというものです。学生たちは発言することが当たり前で、疑問や意見があったらすぐに口にしてそれに答える、これが本来の教育の姿です。意欲的な学生から刺激を受け、受け身ではいけないと、自分から発信できるようになったことは大きな進歩でした。

また、ダブリンシティ大学には日本語学科があり、現地の学生と日本語についての授業を受けました。日本語を客観的に考え、海外の学生が日本語をどうとらえているのか知る良い機会でした。特に、日本の“お腹”という言葉についての授業が印象に残っています。「日本語に腹巻、切腹といった言葉があるように、日本文化においてお腹はすごく重要な部分である。しかし、英語にはお腹という概念がない。胃なのか、腸なのか」という内容でした。日本語で何気なく使っている言葉が、言語や文化を越えるとその概念さえも存在しないということに驚いたとともに、言葉の興味深さも感じました。

学業と両立して、大学のクラブ活動にも参加しました。現地の人とバレーボールをすることが留学の一つの目標であった私は、中学時代から続けているバレーボール部に所属しました。スポーツに言葉は必要ないと思っていたのですが、意思疎通をし、戦略を立てるためには、やはり言葉は非常に重要なツールです。**私の英語は未熟でしたが、仲間は私を一人のチームメイトとして受け入れてくれ、私の居場所を与えてくれました。遠征や大会を通して、仲間と喜びや悲しみ、悔しさといった感情を共有できたことが何よりも嬉しかったです。大会で競り合って準決勝で負けた時に流した涙、次の大会ではそれを晴らそうと決めた誓い、そして最後のアイルランド大学リーグで優勝した後のみんなの満面の笑みには国籍や人種の壁は全くありませんでした。このような貴重な経験は、ただ椅子に座って英語で授業を受けているだけではできなかったことです。バレーボールが人との輪を世界にまで広げてくれたのです。**

この留学を通して得た新しいことにも臆することなく飛び込める度胸、どんな場所でも花を咲かせることのできる適応力は、私の大切な財産です。これらはすべて、数えきれないほどの貴重な出会いによってもたらされたものです。日本にいても、文化や言語が違うアイルランドにいても、一番大切なのは“人とのつながり”です。留学中、アイルランドの人々の温かみにどれだけ助けられ、救われたかわかりません。自分は一人で生きているのではない、多くの人に支えられて今の自分がいるのだと身に染みて感じました。これから、一つ一つの新しい出会いを大切にしながら、“人とのつながり”を通して自分自身を高めていきます。

最後になりましたが、交換留学に参加させて頂いたこと、この留学に関わって頂きましたすべての皆様に心から感謝申し上げます。

日本を紹介するイベントでソーラン節の披露

ハロウィンパーティー

ダブリン中心街の日常

聖パトリックの祝日で友人と

大学クラブの授賞式

モロッコ、サハラ砂漠の朝焼け

ふるさとを語る

日本編その32　兵庫県

『日本の縮図と呼ばれる県』

日本の中央部・色んな分野で全国平均

北は日本海、南は瀬戸内海に面し日本のほぼ中央部に位置する兵庫県。日本の標準時子午線が通っていることでも有名です。兵庫は産業や人口構成、気候など、あらゆる分野において全国の平均を保っていることから、「日本の縮図」と言われています。

兵庫と言えば姫路城や神戸牛が有名ですが、他に明石海峡大橋や有馬温泉、地酒、手延素麺の生産でも有名です。

兵庫は関西なので関西弁が話されていますが、県の中でも神戸弁や播州弁等、地域独自の方言もあります。

約10年前に訪れた際に撮った姫路城

兵庫で育ったから体験できたこと

震災を経験した兵庫は、震災・防災に関連した施設が整備されています。社会科見学で施設を訪れた際に、語り部さんのお話を聞いたり実際に被災したモノや当時活動していた断層を見たりと、学校でも校外でも震災について学ぶ機会が多かった印象があります。

また家の近くに、100万点を超える収蔵資料をもつ公立博物館があり、何度か訪れていたのですが、この博物館が国内最大級のものだと大学の講義の課題で調べていた際に初めて知り、20年近く住んでおきながら知らなかったことに恥ずかしさを覚えました。

「ひとはく」の愛称で親しまれる三田市にある博物館

長年の慣れ親しみがもたらしてくれる故郷の癒し

高崎へ来た1年前は関西と関東の言葉の違い、好きなTV番組が高崎では放送されていない等、軽いカルチャーショックを受けましたが、思ったより早く高崎の環境に慣れ、今は”住めば都”とはこういうことかと実感しています。

しかしながら、私は三田(さんだ)市のニュータウン地区で生まれ育ち、近隣のスーパーや学校、公園に行く際一度も車と会わずに行ける環境にいたため、どこもかしこも車道で、かつ交通量の多い環境には2年目の今でも慣れません。三田のような田舎らしく、落ち着いた雰囲気を感じられるところが、私の改めて感じる故郷の魅力です。

明石海峡大橋

海外編その31　マレーシア　ペナン島

『ビーチリゾートであり、多文化を融合した都市』

多民族国家のマレーシア

私の故郷はマレーシアのペナン島です。マレーシアは東南アジアに属し、タイの南、シンガポールの北に位置しています。マレーシアの総面積は3.3万平方キロメートルで、人口は約2,995万人。マレーシアは多民族国家で、マレー系や中華系、インド系などの様々な民族がいます。そのため、マレーシア人は幼稚園からマレー語と英語が必修科目で、学校によって、中国語とタミール語も必修科目になることもあります。

ペナン島の夕日

多文化の町並みはペナン島一番の魅力

私の出身地のペナン島はマレーシアの北の方にあります。ペナン島は日本の大阪と似たような存在で、マレーシアの第2の首都と言えます。

また、ペナン島は「東洋の真珠」と呼ばれます。18世紀に英国領となったことで、以前のイギリス植民地時代の建物や様々な文化が融合した独特の町並みがペナンの魅力です。そのような独特な町であるジョージタウンは、2008年に世界文化遺産に登録されました。

セント・ジョージ協会

ペナン島といえばグルメ、グルメといえばペナン島！

観光地以外では、ペナン島の食べ物も有名です。ペナンの料理は首都のクアラルンプールの料理に比べるとあっさり目の味付けが多くて、素材の旨みを大事にしています。それがペナンはクアラルンプールより食の都として有名な理由だと思います。ラクサ、ホッケンミー、チャー・クイティオ、チェンドルとオタオタはペナン子のこだわりが詰まったペナンのマスト・トライ料理です。

チャー・クイティオ

鶴鷹祭 かくようさい

第49期体育会本部　代表幹事
経済学部 4年　唐澤　悠

3連敗の中迎えた第42回鶴鷹祭、高崎経済大学には鶴鷹祭の勝利を知る者は誰1人としておらず、絶対に負けられない、何としてでも勝たなければならないという気持ちを胸に敵地・都留へと出向いていった。

私は高崎経済大学の勝利をただひたすらに願い、声を枯らして声援を送った。また、試合のない選手も一緒になって、懸命に応援していた。この時高崎経済大学体育会が1つになっていると実感することが出来た。しかし、健闘も及ばず9−11で連敗を止めることが出来なかった。勝利をもたらすことが出来ない申し訳なさだけが残った。しかし、全員が全力で挑み、負けたことに対しての後悔はない。次はOBとして、鶴鷹祭の勝利の報告が聞けることを楽しみにしている。

最後に、鶴鷹祭を運営するに当たり、学長をはじめとする諸先生方、学生課の皆様、地域住民の皆様、そして体育会員の皆様のご協力がなければ成功を収めることが出来ませんでした。本当にありがとうございました。

第42回鶴鷹祭　試合結果表

平成27年6月20・21日　於:都留文科大学

種目	高経大 − 都留大	MVPor敢闘賞
空手道	○ 2 − 1 ●	清水詩央璃
弓道	○100 − 80●	佐藤裕一郎
男子剣道	● 1 − 2 ○	木村　友輔
女子剣道	● 1 − 3 ○	嘉藤　佑紀
男子硬式テニス	○ 7 − 2 ●	西岡　稜介
女子硬式テニス	● 1 − 6 ○	倉島　敦美
男子ソフトテニス	○ 3 − 2 ●	島崎　晶浩
女子ソフトテニス	● 1 − 2 ○	本間　彩花
男子卓球	○ 4 − 3 ●	大庭　誠之
女子卓球	● 0 − 3 ○	渡邊咲也加
男子バスケットボール	●61 − 67○	斉田　真也
女子バスケットボール	●48 − 99○	中久喜千裕
男子バドミントン	○ 3 − 2 ●	大石　佳季
女子バドミントン	● 2 − 3 ○	高橋　真由
男子バレーボール	○ 2 − 0 ●	細野雄太朗
女子バレーボール	● 0 − 2 ○	菅　志織
ハンドボール	○28 − 21●	新井　柾吾
ラグビー	●14 − 29○	三島　功己
陸上競技	●27 − 35○	小泉恵一郎
総合成績	● 9 − 11 ○	

※表中○が勝ち、●が負け、数値が得点

三扇祭 みつおうぎさい

第58回三扇祭実行委員会　委員長
地域政策学部 3年　飯塚　巧磨

10月31日から11月3日の4日間に渡り第58回三扇祭が開催されました。今年は「brightness」をテーマに掲げ、三扇祭が“かがやき”ある、高崎から日本中に“かがやき”を放つ学園祭になるようにという思いを込めました。また、文字通り学生・来場者の双方が主役となって光り輝けるような学園祭を目指し、日々努めて参りました。

今年の三扇祭は雨や風に悩まされることもありましたが、大きな事故も無く無事に4日間を終えることができました。学生や来場者の方々はいかがだったでしょうか?少しでも皆様が楽しんでいただけたなら、私たち実行委員としてはこの上ない喜びです。

最後に、今年も無事に三扇祭を終えることができたのは参加者の皆様を初め、協賛企業の方々、大学関係者の皆様など多方面からのご支援、ご協力があったからこそです。この場をお借りしまして、委員を代表し御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

たかけい INFORMATION

就職支援

OB・OGによる就職相談会が開催されました

現役生が同窓生と交流することにより、仕事・社会に対する考え方、在学中の過ごし方などを考える機会とし、平成22年度から、「就業力育成ネットワーク・同窓生との交流会」を実施しています。今年度は「OB・OGによる就職相談会in東京」「OB・OGによる就職相談会in高崎」と名称を改め実施いたしました。

東京会場

11月21日(土)にチサンホテル浜松町にて「OB・OGによる就職相談会in東京」を開催し、東京在住の本学卒業生が組織する「東京三扇会」より(株)三井住友銀行、(株)東芝、清水建設(株)、(株)きんでん、(株)リクルートスタッフィング、SMBC日興証券(株)、預金保険機構、いであ㈱といった企業に勤務される同窓生に参加していただきました。相談会後には同窓生であるヤマト運輸㈱代表取締役社長の長尾裕氏に講演をいただき、貴重なお話を伺うことができました。

参加した学生は同窓生に「OB・OGだからこそ聞ける企業や業界の深い話」、「就職活動の心構え」等の質問・相談に応えていただくことができ、就職活動への意識を高めることができました。また、多くの同窓生との交流を通して、同窓生とのつながりを強固なものとし、有意義な時間を過ごしました。

高崎会場

12月5日(土)に本学7号館にて「OB・OGによる就職相談会in高崎」を開催し、全国から多くの同窓生にお集まりいただきました。

学生は出身地別グループ・希望業種別グループに分かれ、同窓生から出身地の就職情報や、自分自身の仕事への取り組み方などを伝えていただきました。

その他、同窓生である(株)ベルク代表取締役社長の大島孝之氏より「社会人になる準備期間を終えて〜さあ、幸せな人生を送るために何をすべきか」との講演をいただき、学生にはこれからの就職活動、さらには社会人としての自分を考える契機となるお話を伺うことができました。

参加した学生たちは、出身地の枠を超え積極的に情報交換を行い、就職活動への不安を解消することができ、意気込みを新たにしました。また、例年このイベントは同窓生との交流だけでなく、改めて地元を見つめ直し、就職活動の視野を広げる良いチャンスとなっています。

就職相談会in東京(交流会)

就職相談会in東京

就職相談会in高崎

キャリア支援センターからのお知らせ

キャリア支援センターでは、各種ガイダンスやセミナーといった就職支援事業を行っています。今後、実施予定のイベントについてお知らせいたします。積極的に参加してください。各イベントの詳細はメールやホームページ、または学内掲示板等でご確認ください。

●お問い合わせ＝教育グループキャリア支援チーム:電話027-344-6263

開催日時		事業名称	
12月9日(水)	17:45〜19:30	SPI対策講座【学部3年・院1年対象】	
12月15日(火)または17日(木)	17:45〜19:30	SPI模擬試験【学部3年・院1年対象】	要申込 有料
12月16日(水)	17:45〜20:00	内定者報告会【主に学部3年・院1年対象】	
12月18日(金)	16:00〜17:30	自己分析セミナー【主に学部3年・院1年対象】	
1月	17:45〜19:15	グループディスカッション実践練習会(3回開催予定)【全学年対象】	要申込
1月18(月)〜 1月21日(木)	12:30〜16:30	業界セミナー【全学年対象】	
1月13日(水)	17:45〜19:30	エントリーシート対策講座【学部3年・院1年対象】	要申込 有料
2月	17:45〜19:15	グループディスカッション実践練習会(2回開催予定)【全学年対象】	要申込
2月13日(土)	10:30〜15:20のうち50分間/1人	OB・OGによる模擬面接会【学部3年・院1年対象】	要申込
2月26日(金)	13:30〜17:00	模擬面接講座【学部3年・院1年対象】	要申込
3月 1日(火)〜 3月 4日(金) 3月14日(月)〜 3月16日(水)	12:30〜16:30	合同企業説明会【学部3年・院1年対象】	

後援会

高経大後援会学生奨学金について

本学学生の学業と生活支援を目的とした奨学金制度です。奨学金給付額は授業料の3分の1相当額です。対象者は授業料減免対象者の中から、特に成績優秀な学生を事務局で推薦します。

高経TOEIC成績優秀者表彰について

TOEIC公開テストで700点以上を獲得した学生に賞状及び記念品の授与を行います。現在、今年度分の申請を受け付けています。表彰を希望する学生は平成28年2月29日までに申請書を提出してください。

合宿などにご利用ください。

◆保養所利用可能施設

施設名	連絡先
ゆうすげ元湯	027-374-9211
レークサイドゆうすげ	027-374-9131
はまゆう山荘	027-378-2333

上記3施設へ宿泊を希望する学生に対し、保養所利用助成券を発行しています。●助成額＝4,000円　●利用資格＝本学在学生

◆厚生施設

施設名	連絡先
高経会館	027-344-1521
白馬セミナーハウス	0261-71-1164

教員、学生、同窓会員等の皆様を対象とした宿泊・研修施設です。

白馬セミナーハウス閉鎖について

平成29年3月31日をもって白馬セミナーハウスを閉鎖する運びとなりました。なお、閉鎖日までは通常通り営業を行う予定ですので、引き続きご活用ください。

●お問い合わせ＝後援会事務局（キャリア支援チーム内）：
電話027-344-7902

同窓会支部総会のお知らせ

今年度各地で開催された同窓会支部総会の実施状況と今後の予定をお知らせします。出身県、近県の方はぜひご参加ください。在校生も大歓迎です。

●お問い合わせ＝同窓会事務局（学生支援チーム）：
電話027-344-6262

支部	開催日	開催場所		参加人数
桐生支部	4月25日（土）	四辻の斎嘉	済	20
栃木支部	7月11日（土）	ホテルサンルート佐野	済	25
高知支部	7月18日（土）	料亭旅館　臨水	済	25
石川支部	8月22日（土）	金沢都ホテル	済	30
三重支部	8月29日（土）	たちばな安島本店	済	20
富山支部	8月29日（土）	自遊館	済	35
愛媛支部	8月29日（土）	松山全日空ホテル	済	20
新潟支部	9月　6日（日）	万代シルバーホテル	済	30
オホーツク支部	9月26日（土）	北見プラザホテル	済	25
宮城支部	10月　3日（土）	ホテル法華クラブ	済	50
札幌支部	10月16日（金）	京王プラザホテル札幌	済	70
香川支部	10月24日（土）	アリスイン高松	済	20
大分支部	11月　7日（土）	ふく亭本店	済	25
広島支部	11月　7日（土）	メルパルク広島	済	20
関西支部	11月14日（土）	新大阪ワシントンホテルプラザ	済	55
岩手支部	11月26日（木）	ホテル・ニューカリーナ	済	32
飯田支部	11月28日（土）	ホテル弥生	済	25
徳島支部	1月　9日（土）	ホテル千秋閣		−
長野設立総会支部	2月　6日（土）	メルパルク長野		−

リレー講義

2016年度（前期）の経済学部リレー講義は、本学OB・OGに講師をお務めいただきます。講義日及び内容、講師等は下表のとおりです。

●講義時間＝14:20〜15:50
●教室＝7号館731教室
●お問い合わせ＝教務チーム：電話027-344-6264

前期			
回	講義日	講義テーマ	講師
1	4月13日	スーパーマーケット発展の歴史とチェーンストア経営	（株）ベルク 代表取締役社長　大島 孝之
2	4月20日	日本人の英会話力を阻害するメンタルブロックの考察と対処法	株式会社 HIC 本城式英会話スクール 代表取締役・校長　本城 武則
3	4月27日	日本の塩事情 （塩専売時代から自由化まで）	（社）日本塩工業会 専務理事　横堀　明
4	5月11日	86のマクロ指標で読み解く世界と日本 （付録）幸せになれる就職	（株）日経ＣＮＢＣ 経済解説委員会 コメンテーター　平野 憲一
5	5月18日	組織と個人のキャリア	（株）リクルートキャリアコンサルティング 1級キャリアコンサルティング技能士 米国ＣＣＥ認定キャリアカウンセラー 南　聡子
6	5月25日	ビジネスと学問の融合	元青山学院大大学院教授 前田　昇
7	6月　1日	NPO活動と企業のCSR	NPO法人PHJ 東京事務所 部長　北島　弘
8	6月　8日	ヤマトグループの経営戦略	ヤマト運輸（株） 代表取締役社長　長尾　裕
9	6月15日	ライフスタイルと街づくり	安田不動産（株） 開発第三部部長　澤田月来男
10	6月22日	志ある者は事竟になる	（株）ヨンドシーホールディングス 代表取締役会長　木村 祭氏
11	6月29日	「海外駐在は役に立ったか」 ・仕事、生活、家族にとって ・英語とどう取り組んだか	（株）モリダイラ楽器 マーケティング アドバイザー　今　憲行
12	7月　6日	歴史を繋げ、歴史を創れ、 スーパーゼネコン営業マン	清水建設（株） 営業課長　関口史人
13	7月13日	国家公務員の仕事って？	農林水産省 食料産業局企画課 課長補佐　平野賢一
14	7月20日	Career Design with Planned Happenstance （出会い型キャリアデザイン）	楽天株式会社 人材グループリーダー　角田大輔
15	7月27日	グローバルと日本の 労働市場とワークスタイル	ランスタッド（株） 代表取締役社長　猿谷　哲

※講師の都合により、変更になる場合があります。

学生数

●経済学部

1年	2年	3年	4年	計
545 （139）	530 （148）	478 （126）	571 （132）	2,124 （545）

●地域政策学部

1年	2年	3年	4年	計
437 （185）	456 （161）	486 （179）	556 （209）	1,935 （734）

●経済・経営研究科

前1年	前2年	後1年	後2年	後3年	計
5 （1）	7 （3）	0 （0）	1 （0）	1 （0）	14 （4）

●地域政策研究科

前1年	前2年	後1年	後2年	後3年	計
8 （3）	13 （6）	0 （0）	3 （1）	3 （2）	27 （12）

※（ ）内は女性数：2015年12月現在

今回の表紙

7号館からの市街地遠景
〜夕日に照らされる信越線と〜

撮影：写真部
地域政策学部　加藤　駿志